



星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2023/03/01
氏名	安井淳一郎
指導教員名	太田進
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など
論文採択・掲載日	2023 年 2 月 21 日
論文掲載雑誌名 巻・号・年	Orthop J Sports Med. 2023 Feb 21;11(2):23259671231151410.
doi	10.1177/23259671231151410
タイトル	Preoperative Loss of Knee Extension Affects Knee Extension Deficit in Patients After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction
発表者名（全員記載）	<u>Junichiro Yasui</u> , Susumu Ota, Kazutoshi Kurokouchi, Shigeo Takahashi
要旨 (250 字程度)	<p>【対象と方法】 膝前十字靭帯(Anterior Cruciate Ligament: ACL)再建術前患者 389 名を対象に、Heel Height Difference (HHD) にて術前の膝伸展制限を測定し、HHD2cm 以上群 55 人と HHD2cm 未満群 334 人に分け、伸展制限の推移を術後 12 か月まで縦断的に調査した。</p> <p>【結果】 術後 12 か月の伸展制限は HHD2cm 未満群で 13.8%、HHD2cm 以上群で 38.2%に存在した。</p> <p>【考察】 ACL 再建術前の膝伸展制限は術後 12 か月まで影響する可能性があるため、手術前から伸展制限改善に取り組む必要がある。</p>

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2023/3/1
氏名	佐藤 克成
指導教員名	渡邊 和子, 山田和政
掲載内容 (<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など)	
論文採択・掲載日:	2023 年 2 月 17 日
論文掲載雑誌名	Aging Clinical and Experimental Research (in press)
巻・号・年	
doi	10.1007/s40520-023-02374-2
タイトル:	Effects of dance video game training on cognitive functions of community-dwelling older adults with mild cognitive impairment
発表者名 (全員記載):	<u>Katsunari Sato</u> , Akira Ochi, Kazuko Watanabe, Kazumasa Yamada
要旨 (250 字程度)	ダンスビデオゲーム (DVG) は、高齢者の認知機能や身体機能の改善に対して有益な効果を示しているが、軽度認知機能障害 (MCI) を有した高齢者を対象とした報告はほとんどない。本研究は、DVG トレーニングが MCI 高齢者の認知機能および大脳の前頭葉活動に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。高齢者を認知機能テストに基づいて、MCI 群 10 名と正常認知機能群 11 名に分け、週 1 日、1 回 60 分、計 12 週間の DVG トレーニングを行っていただいた。12 週間の DVG トレーニングは、MCI 群の認知機能テストの成績を有意に改善させ、認知課題 (ストループテスト) 中の前頭葉活動を有意に増加させたことから、DVG は MCI 高齢者のトレーニングとして有用であることが示唆された。

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2023年2月
氏名	村上ま比呂
指導教員名	越智 亮
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	
学会等開催日：	2023年2月18日～2023年2月19日
学会等名称：	日本物理療法合同学会大会 2023
学会等開催場所：	東京都文京区，順天堂大学御茶の水センタービル（オンライン同時開催）
国名，都市名，会場名	
研究・講演タイトル：	局所的振動刺激を併用した下腿三頭筋トレーニング後の筋厚，筋輝度の即時的变化について
発表者名（全員記載）：	村上 ま比呂，越智 亮，林 尊弘
研究概要 （150字程度）	本研究は，局所振動刺激を併用した筋力トレーニングの即時効果について超音波診断装置を用いて検証した．局所振動刺激を併用した群と併用しなかった群の両群とも，トレーニング前後の筋厚と筋輝度の変化に違いが認められなかったため，今回は局所振動刺激の有効性について明らかにできなかった．今後は振動刺激の方法や設定を変更し，継続して研究をすすめていきたい．
感想その他 アピール欄 （100字程度）	学会に参加し，物理療法的知識を専門的に学ぶいい機会になった．自身の研究に関連している研究も多く発表されており，また自身の研究の発展につながる様々な視点からの質問や意見をいただいた．研究内容を見直し，次の研究に向けて進めていきたい．
写真添付欄 2枚以内	 

星城大学大学院健康支援学研究所 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2023年2月28日
氏名	石野 晶大
指導教員名	山田 和政
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	
学会等開催日：	2022年11月4日～2022年11月6日
学会等名称：	第6回日本リハビリテーション医学秋季学術大会
学会等開催場所：	日本，岡山県岡山市，岡山コンベンションセンター
国名，都市名，会場名	
研究・講演タイトル：	回復期低栄養脳卒中患者の栄養状態の経過別における退院時の日常生活動作改善度の差異
発表者名（全員記載）：	石野晶大，山田和政，牧芳昭，中橋亮平
研究概要 （150字程度）	回復期低栄養脳卒中患者の栄養状態の経過を分類し，各群における退院時の日常生活動作改善度の差異について調査・検討することを目的とした．結果は，各群において入院時の運動FIMは有意差を認めないものの，退院時の日常生活動作改善度は，栄養状態が改善した群が有意に高い結果となった．
感想その他 アピール欄 （100字程度）	回復期病棟入院中の栄養状態の経過により，日常生活動作改善度が異なる可能性が示唆され，リハビリテーション栄養領域において新たな知見を報告することができた．
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2023年2月28日
氏名	石野 晶大
指導教員名	山田 和政
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	
学会等開催日：	2022年10月29日～2022年10月30日
学会等名称：	第38回東海北陸理学療法学会大会
学会等開催場所：	日本，愛知県，Web開催
国名，都市名，会場名	
研究・講演タイトル：	回復期脳卒中患者における入院期間中の身体機能・能力評価の変化量を用いた退院時の歩行自立度の予後予測-決定木分析を用いた検証-
発表者名（全員記載）：	石野晶大，山田和政，細井雄一郎，藤井博昭，三田琢磨
研究概要 (150字程度)	回復期脳卒中患者を対象に，身体機能・能力評価を加味した退院時の歩行自立度の予後予測を，決定木分析を用いて検討した．結果は，入院時の重症度別で予測因子間の相互関係は異なり，いずれの重症度においても第1ノードに変化量の項目が抽出され，予後予測を行う上で身体機能・能力の変化を考慮する必要性が示唆された．
感想その他 アピール欄 (100字程度)	多くの質問や意見を頂き良い経験ができた． 今後の回復期リハビリテーション医療における目標設定，治療戦略において重要な一資料となり得る報告ができた．
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2022年10月20日
氏名	鈴木 隆史
指導教員名	太田 進
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	※いずれかにチェック
学会等開催日	2022年10月8日～2022年10月9日
学会等名称	日本義肢装具学会学術大会
学会等開催場所	新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ
国名、都市名、会場名	
研究・講演タイトル	高齢者の車椅子座位における仙骨座圧及び骨盤前傾に対する形状記憶合金コルセットの装着効果について
発表者名（全員記載）	鈴木 隆史、太田 進
研究概要 (150字程度)	日常的に車椅子に乗車して座位時間を確保する高齢者の姿勢には、骨盤後傾による仙尾骨部の褥瘡のリスクがある。この課題に対して、標準型車椅子を利用した場合の報告は少ない。そのため、標準型車椅子に乗車した状態で骨盤を前傾させる効果が期待できる機構のある形状記憶合金コルセットを装着し、その時の仙尾骨部の座圧の減少効果を検証した。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	初めての学会発表ということもあり緊張しましたが、修士課程で指導教員である太田先生と内容を吟味し大学院で複数回の発表を行ってきたため、全国学会での発表でしたが、落ち着いて発表することができました。今後も臨床での新しい発見を世に出すために、学会での発表や論文の執筆を行っていきたいです。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2023年2月28日
氏名	石野 晶大
指導教員名	山田 和政
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	
学会等開催日：	2022年9月30日～2022年10月1日
学会等名称：	リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022
学会等開催場所：	日本，北海道苫小牧市，グランドホテルニュー王子
研究・講演タイトル：	急性期病院在院中に虚弱性および低栄養を併発した頭部外傷症例に対するリハビリテーション栄養の実践
発表者名（全員記載）：	石野晶大，山田和政，高取里英，河本友紀，芥川比呂，加藤聡子
研究概要 (150字程度)	急性期病院在院中に虚弱性および低栄養を併発した頭部外傷症例に対し，虚弱性および低栄養状態からの離脱を退院時の目標とした介入を行なった．入棟初期では，栄養状態の改善を図る介入を優先的に行い，次いで虚弱性に対する介入に移行するといった段階的な介入を行なった結果，回復期病棟入院中に栄養状態を悪化させる事なく，虚弱性および低栄養から離脱できた．
感想その他 アピール欄 (100字程度)	症例報告ではあるが，修士研究の前駆となる報告ができた． 一症例を通して，修士研究のテーマである回復期低栄養患者における運動療法および栄養管理のあり方に関して言及することができた．
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2022年6月2日
氏名	鈴木 隆史
指導教員名	太田 進
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など
論文採択・掲載日	2023年7月 日
論文掲載雑誌名	日本義肢装具学会誌, 2023 (in press)
卷・号・年	
doi	
タイトル	高齢者の車椅子座位における仙骨座圧及び骨盤前傾に対する形状記憶合金コルセットの装着効果について
発表者名（全員記載）	鈴木隆史, 太田進
要旨 (250字程度)	<p>高齢者の車椅子座位におけるリスクとして、骨盤後傾による仙尾骨部の褥瘡が挙げられる。車椅子自体に褥瘡対策を施したものに変更するといった報告は多いが、標準型車椅子を利用した仙尾骨部の褥瘡予防の報告は少ない。そこで、骨盤を前傾させる効果が期待できる機構のある形状記憶合金コルセットを装着し、仙尾骨部の座圧の減少効果を検証した。本コルセットの装着の有無で比較した結果、本コルセットを装着した場合に仙尾骨部座圧は有意に低値を示した。そのため、本コルセットの装着は標準型車椅子に応用可能な仙尾骨部の褥瘡予防の一つとして考えられた。</p>

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2022年3月24日
氏名	石黒 博也
指導教員名	林 久恵, 江西 一成
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など ※いずれかにチェック
論文採択・掲載日	2022年3月21日
論文掲載雑誌名 巻・号・年	日本糖尿病理学療法学雑誌 1巻・1号・2022年
doi	https://doi.org/10.51106/ptdm.1.1_77
タイトル	小型端末を用いた運動支援による 過体重の 2 型糖尿病患者における活動量の変化
発表者名（全員記載）	石黒 博也, 林 久恵, 江西 一成, 神谷 実希, 榊原 康喜, 高橋 ゆい, 野尻 奈穂, 水野 裕子, 丹羽 靖浩, 足立 浩一
要旨 (250 字程度)	<p>【はじめに】本研究の目的は小型端末を使用した運動支援が入院中の肥満 2 型糖尿病患者の運動習慣の獲得と減量効果に及ぼす影響を検証することとした。</p> <p>【方法】対象は運動習慣のない肥満 2 型糖尿病患者 14 名とし、運動支援に小型端末を使用する使用群（8 名）、使用しない非使用群（6 名）に割り付けた。</p> <p>【結果】運動順守率において使用群は非使用群と比較して有意に高かった($p < 0.001$)。退院時の行動変容ステージは使用群が非使用群と比較して実行期の割合が有意に多かった($p = 0.015$)。【考察】使用群では小型端末の通知機能と運動実施のフィードバックが運動アドヒアランス向上に寄与したと推察される。小型端末の使用による運動習慣化、減量効果については追跡調査が必要である。</p>